



卓 話



「ロータリーを斬る」 (株)雄松堂書店代表取締役会長 新田 満夫氏(東京小石川RC)

ロータリー会員の利点の一つは例会で卓話を聞ける事です。卓話を誰にお願いするかが非常に大事なことになります。今日は「何でも自由に話して下さい」との事でしたので話しやすいクラブですが、話しがあちこちに流れそうな気もするので、気を付けながら話したいと思っています。



最初に、『広辞苑』の言葉の中から2つ申し上げます。1つは「後期高齢者」という言葉ですが、『広辞苑』で引いた人はここにはいないと思います。『広辞苑』ではもう既に第四版のころから「後期高齢者」という言葉は載っております。決して今度の新版に載ったわけではないのです。電子辞書がある人は、あとで調べてみて下さい。間もなく私も後期高齢者に入りますが、これを読みますと「一般に75歳以上の高齢者のことをいう。この年齢層は有病率が高く日常生活に困難が急増する」とあります。福田総理は誰かに「後期高齢者」は『広辞苑』にこう説明されていると言われ、これはまずいと思い「長寿保険」と考えましたがすでに遅く、「後期高齢者保険制度」という名称で該当者に通知が行っております。この制度を現高齢者やこれから成る人、そして若い人達がどう考えてるかわかりませんが、私は個人的に反対です。

もう1つ、「クラブ」という言葉を『広辞苑』で引きます。これはロータリーがクラブであるからです。イギリスを発端としてその系統であるアメリカも含め、ある層の人達がやたらにクラブを作りますが、『広辞苑』では「政治・社交・娯楽・教育等の課外活動。共通の目的によって集まった人々の団体」と載っています。ではロータリークラブも共通の目的がなければ、「ロータリー社会保障協会」とか「ロータリー〇〇協会」とか「〇〇会」の方が的確であり、ロータリーがクラブと言いつついって行くためにはやはり共通の目的によって集まっていなければならないという事が大事だと思っています。ですから四谷ロータリークラブの共通の目的、つまり全員が一致したコンセンサスを持つ事から始めて頂きたいと思っております。

実は1971年、もう40年近く前に、小石川にロータリーク

ラブか2クラブのリーダーシップでできるという年に、私は青年会議所の東京の理事長をやっておりまして、30代、40代、50代、60代の人を、バランスよく40名集めるので入りなさいという事で入会致しました。私はまだ現在の会社を始めたばかりで、ロータリークラブというのはどこか遠くにあるもので、縁もゆかりもないと思っていました。全くその気はなかったのですが、戦後の日本文化を創った1人である講談社の先代々の社長、野間省一さんが初代会長として説明会を行うと伺い興味を持ちました。

説明会に行きましたら、全部で30名ほどいろいろな職業の方がいました。そこへ書籍業界では神様のような野間さんがサッと来まして、「若い人は入んなさい。でも本当にちゃんと出るのは、一人前になる50歳位になってからでいいよ。それまでは、ロータリークラブに入ったという誇りだけ持って仕事しなさい。時間というのは自分で作るもので、人からもえないよ。ロータリーに入って、時間の作り方を学びなさい」とおっしゃいました。この言葉が入会のきっかけだったと記憶しています。

ロータリークラブでこの道で名の知れた方の隣に座って話を聞く事は、若い者にとっては大変な感激でした。今でも忘れられない経験です。私は45歳位からほぼ皆出席を努めております。時間も使いましたが、ロータリークラブでは得たものが多かったと思っております。

それでは今、私達がそれを若い人達に出来るような人間に成っているのでしょうか。「小石川ロータリークラブに入ると、新田さんがいるから入りたい」という若い人達がいるかと考えると、大変反省をしております。野間さんは、初代会長、2代会長でしたけれども、黙って座っているだけで何もしゃべりません。当時ゴルフ会ができたのですが、「あんたはまだまだウィークデーにゴルフへ行くなんて早い、今は仕事をやりなさい。『そろそろゴルフに出たら』と俺が言ってやるから」と言われたのを覚えています。

長くクラブに在籍しておりますと、新田さんに聞けばわかるという事で「これはどうしたらいいか」「この様な寄付の申し込みはどうしたらいいんだ」とやたらに聞きにきます。つい「ああしろ、こうしろ」と言い続けてきてしまいましたが、それでいて野間さんが当時我々若い人に与えたような印象を、今私が若い人に与える事が出来ているのかと非常に反省をしています。

私は分区幹事をやらせてもらったのが始まりで、地区会計、国際奉仕委員長等、又今のガバナー補佐である分区代理を任せられ、良い意味で自分のクラブだけでない、ロータリー全体を見ながらやってきました。

一番印象に残っているのが、もう10年程前、地区大会の

実行委員長をやらせて頂いた時の事です。主催者のガバナーがその1週間前に交通事故に遭い、ガバナーなしの地区大会をやりました。臨時ガバナーがいましたが、ガバナーが議長や、座長をする沢山のプログラムが全て変更となり、大変苦労した事を覚えています。

そうした経験を重ねた結果、何故一気に熱が冷めたかを申し上げたいと思います。現在もロータリークラブの会員でありますし、極力出席致しますが、今後は役員・理事等も一切受けない事にしました。どこのクラブにもいらっしゃると思うのですが、自分で受けないと言わないかぎり、次々理事等になる人が、又この人だけは一応頼まないとなぜかという人がいるんですね。そこで私は一切やりませんという事で、一委員としてそれなりに一生懸命クラブに貢献しているつもりです。

何故冷めたかと言いますと、実は最後に私のやった仕事は、ロータリーの100周年の特別委員長でした。100周年にあたってこれからどういうロータリークラブにしていくのか、100周年実行委員会で皆さんの意見を聞いて欲しいと、当時の戸田ガバナーに頼まれました。第2580地区の会員にアンケートを取ったり、他地区に意見を聞いたり、各クラブから代表が300人程集まって、麴町会館で大きなディスカッション等を行いました。そしてそれらを全部まとめて、委員長として「こういう意見がありますから、是非これを採用してください」ということを次年度のガバナーに申し出たのです。しかし全く返事が来ませんで、それどころか「ロータリーは単年度だから、来年どうあるべきだなんて事を言うのはおかしい」というような事を言われました。この時、やはりロータリーはそういうものか、では単年ずつやればいいのかと思ったのです。

優秀な経験を積んだ日本の高齢者、言いかえればこれから第一線を去っていく人達を、ロータリーの中に巻き込んで一緒にやるという組織にする為に、ロータリークラブの組織や、年会費等々を改革すべきであるという事を提言したいと思います。ロータリーは青少年関係に非常にエネルギーを注いでいますが、若い子供達の事は、それをを一生懸命やっている教育機関等に任せ、我々は最後のバックアップをすればいい。これから押し寄せてくる高齢化社会に於いて、経験豊かな高齢者にいかに長く仕事をしてもらい、税金を払って頂き、そして保険料を少なくするという事にロータリーは力を入れるべきで、そしてそういう人達をロータリーの中にどう迎えていくかという事を考えるべきだと思いました。

アンケートの中で「景気が良くなれば、また会員は増えますか」という質問をしました。約9割程の人が「景気が良くなっても、ロータリーの会員はそんなに増えない」という答えでした。そこでこれまでの会員増強だけの思考をやめて、今いる会員がやめないようなクラブにしようと考えたのです。15年位前までは、毎年ロータリークラブが2つ、3つと続々と出来ていましたが、最近ほとんど新設されていません。会員数20名とか25名というクラブがあり、そうしたクラブの中で地区委員長等をしている人がいます。そのクラブに聞くと「あれ、あの人、勝手にやってんだよ。うちのクラブから特に推薦したんじゃない」と言うのです。

私は50名位で十分成り立つクラブで、特に今後の社会に

一杯出てくる有能な高齢者達と一緒に、日本の長寿化社会の中で存在価値のあるクラブ運営にすべきである。クラブの新設よりも合併をやるべきだとあの時は提案しました。東京都内は平均しますと1つの区に3~4クラブあるのです。文京区には小石川、後楽、本郷があり、合わせると130人位会員がいるのです。これを1つにして文京ロータリークラブにしてはどうか。そうすると、3人いる事務局の人が2人で済むと思います。

もう1つは簡単に言うと、人数を増やす事によってロータリーの存続を図ろうという対策から、人数は増えなくてもロータリークラブの存在価値を高めるようにする対策に方向転換すべきであるとかかなりのデータを提出したのですが、次年度のガバナーがRIの指令であるからやはり1クラブ5人増やせと言われました。しかし結果は減少でした。最初から出来ないような目標を立ててロータリークラブを運営していくと、本当に一生懸命ロータリーを愛している人達も面白くないですし、入会の勧誘も出来ませんと文章で提出したのです。

その時動いてくれた方達も、私と一緒に冷めてきましたが、今もみんな一生懸命それぞれのクラブでお務めしております。しかし原則的にはロータリーの地区、或いはRI等には関与しないで、自分のクラブの為に一生懸命やろうという人が大分増えてきているのを私は最近見ております。

偉そうな事を言いましたが、客観的にはロータリーについての論文もありますし、私なりにロータリーを一生懸命やってまいりましたし、その良さも知っているから申し上げました。その答申書を出してからすでに8年位になりますので今とどう違うかと見ているのですが、ほぼあの時に我々が答申したような形になってきていると思います。クラブというものの見方1つ取っても、アメリカと日本では違うのです。最初に言いましたように日本のロータリークラブというのは「共通の目的によって集まった人」が「共通の目的」を持ち、皆で議論する人の集団になるべきだと思います。その提案もしましたし、今も思っています。最近「新田さん、今からでもガバナーやる気あるの」と言った人がいますが、それよりも1人の会員としてやらねばならない事があるとお断りをしました。

最後に、新宿の商工会議所の事を少々お話致します。6月14日に副都心線の開通式が行われましたが、実は商工会議所の会員に「副都心線開通について、貴方はどう思いますか」とアンケートを取ったのです。そうしますと、仕事に使う駅が新宿3丁目の人は非常に影響がある。ところが西早稲田等の後の駅の人達は、余り関係ないとの答えが返ってきました。

新宿という所には観光協会、体育協会と、沢山の会があります。そこへ会議所の会長として集まりに出ていきますと、大体ほぼ同じ人が出ていて、言い方は悪いけれども、金太郎飴的になっています。これはロータリークラブでも同じことが言えます。IMIに出ても、地区大会に出ても、勉強会に出ても、大体いつも同じ人が出ており、これらの人は全ロータリアンの内の1~2割の人です。何でも出る人は出て、出ない人は全く出ないというのが現状です。

商工会議所も色々な会合があります。基本的に新宿駅を中心の大商店街を中心に出来上がったのが、商工会議所の

新宿支部のスタートなのです。私は四谷なので今迄そういう意識は全くなかったのですが、今私がやらなければならない事は、新宿で仕事をしている人達が新宿区の商工会議所の会員である事を意識するように方向転換をしなくてはならないという事です。

もう一つは、新宿区の中に約3万の事業所があり人口は約30万です。その事業所の内現在商工会議所に5,000位入っており、約8割が新宿に住んでいる人ではないのですが、新宿区に事業税を払っているのです。私は新宿区で仕事をして、良い意味では新宿のメリットをもらっているわけですから、新宿区の行政に対して我々が何かもの言う権利があるのだと思います。これを直接言うのはやはり商工会議所の仕事だろうという事で、区長を中心とする行政に対して色々と提案をしています。

先日新しいビルを造る際に、駐車場がないと許可しないという事では良いビルは出来ないと申し上げました。又ここからここまでは何メートルは良いが、ここからここは何メートル駄目だとかいう規制がありますが、そういう事ではなくて、ここにこういう会社ができて、こういうものが出来れば新宿区が良くなるという事を考えて欲しいと思います。こういう建築をして下さいと専門的に言うなら良いですが、一律に線を引いたやり方は新宿区全体を良くする事にはならないと、区の方に時々提案したりしています。あと任期が1年ちょっとしかありませんので、最後の仕事だと思っております。新宿区で仕事をしている人の為に、商工会議所が出来る事は詰めていきたいと思っています。

最初の話に戻りますが、ロータリーはクラブでありませぬ。共通の目的のある人達の集まりですが、人によってロータリーに参加する目的が全く違うと思っています。ですので理事会でも、RIや地区からこういう手紙が来たけどどう対応するか、寄付の金額をどうするか等々とやっているうちに理事会の時間が終わってしまいます。そこで四谷クラブにとって何をやるべきなのか、四谷クラブはどういう人の集まりかということ事を詰めていくことが重要になってきます。それから私たちが12条を提案したのですが、特に今後非常に優秀な高齢者たちがどの様にロータリークラブにいて、それには年会費は高いのではないかと、毎週やるのはどうか、昼間はどうか等々、いろいろな議論があると思うのです。これからこの東京という中でロータリークラブが存続していくためには、どの様なロータリーを作っていけば良いか、もう一度みんなで考える時だと思っています。

全くまとまりのない話でしたが、私はロータリーが好きですし、ロータリーから得たものは大変多いので、まだまだお返しをしなければいけないと思っています。他の団体と違って定年がありません。後期高齢者になっても威張ってられるのはロータリー位ですので、ロータリークラブには常に気持を新しくお付き合いしていきたいと思っています。本日は知っている方が多く、又ほとんどの方にお世話になっておりますので、勝手なことを言って大変恥ずかしいと思っていますけれども、年齢も一番上の方ですので、生意気な事を言ったのを許して頂きたいと思っています。本日はありがとうございました。